

映像にみるヨーロッパ文化

■講座内容

映画鑑賞を通して、ドイツ・フランスの言葉や文化に触れ、映像からヨーロッパ文化（ドイツ文化・フランス文化）を理解していきます。毎回、福岡大学人文学部の教員が歴史的・文化的背景を解説しますので、個人的な鑑賞では得難い知の向上が期待できます。

■進め方は各回とも以下のとおりです。

- ① 本学教員による鑑賞作品の解説
- ② 映像作品の鑑賞
- ③ 感想レポート作成(映画についての感想、意見など)

■ドイツ語圏

開講日時	4/27・5/11・6/8・7/6 木曜日 18:00～21:00
対象・定員	一般・学生 100人
会場	福岡大学
受講料	無料
受付・申込方法	先着順(5ページの申込方法参照)、受講希望の日程ごとにお申し込みください。

■講師 福岡大学人文学部

- 4/27 : 准教授 平松 智久
5/11 : 准教授 マーレン・ゴツィック
6/8 : 教授 富重 純子
7/6 : 准教授 中野 和典

■フランス語圏

開講日時	5/9・6/13・7/11 火曜日 18:00～21:00
対象・定員	一般・学生 100人
会場	福岡大学
受講料	無料
受付・申込方法	先着順(5ページの申込方法参照)、受講希望の日程ごとにお申し込みください。

■講師 福岡大学人文学部

- 5/9 : 教授 桑原 隆行
6/13 : 准教授 山本 大地
7/11 : 教授 遠藤 文彦

鑑賞映像作品(ドイツ語音声、日本語字幕付き)

4/27 『ゲートの恋 君に捧げる「若きウェルテルの悩み」』
2010年 監督:フィリップ・シュテルツェル 105分
文豪・ゲーテを主人公にしたラブロマンス。恋愛と創作活動にのめり込んだゲーテの青春時代を描く。裁判所の実習生として働く23歳の青年・ゲーテ。ある日、彼は友人と出掛けた舞踏会でひとりの女性に出会う。

5/11 『ドイツのメルヘン・アニメ映像』

監督:Lotte Reiniger
ロッテ・ライニガー(Lotte Reiniger)は、1916年、独ベルリンに生まれ、1981年に没した、映画界の偉大なパイオニアの一人。彼女は世界初(欧州初)の長編アニメーション映画『アクメッド王子の冒険』(制作年1923～26年)を制作したことで知られ、そして影絵映画の発明者でもある。彼女がハサミをフリーハンドに使い生み出す美しいシルエットを、いくつかの作品を取り上げ紹介する。

6/8 『さよなら、アドルフ』 2012年 監督:ケイト・ショートランド 109分

ナチス幹部の子どもたちの戦後を描いたドラマ。敗戦直後の1945年ドイツ。ナチ親衛隊の父と母を連合軍に拘束され、置き去りにされた14歳の少女・ローレ。彼女は幼い弟妹たちと共に900キロ離れた祖母の家を目指し、ドイツ縦断の旅に出るが…。

7/6 『舞姫』日本語音声 1989年 監督:篠田正浩 123分

明治の文豪・森鷗外の名作を、篠田正浩監督が郷ひろみ主演で映画化。明治を迎えた日本の医学生・太田豊太郎は、政府の命を受けてドイツに留学。美しい踊り娘・エリスと恋に落ちた彼は初めて自我に目覚め、国や家を重んじる日本文化との間で苦悩する。

鑑賞映像作品(フランス語音声、日本語字幕付き)

5/9 『愛しき人生の作り方』

2014年 監督:ジャン=ポール・ルーヴ 94分
祖母、息子、孫の3世代のまさに「愛しき人生」が描かれたヒット作。最後まで尊厳を保って生を全うする祖母。夫婦間の問題にアタフタする息子。将来が不確かなまま、それでも現実を精一杯生きる孫、その恋の行く末。ユーモアと愛に満ちた巧みな物語展開に、観る者は笑い、ホロリとし、そして自らの人生を愛おしむ。

6/13 『Mommy』英語・フランス語音声

2014年 監督:グザヴィエ・ドラン 139分
ケベック州モンリオール生まれ、グザヴィエ・ドランによる架空のカナダが舞台の映画。架空の設定は前面に現れないが、母子を常に監視し二人の愛を確かめるかのような。美しい映像が登場人物の哀しみを、登場人物の笑顔が束の間を感じさせる。登場人物それぞれが、出口を求めて必死に生きる姿は人文学そのものである。

7/11 『サガンー 悲しみよ こんにちは』

2008年 監督:ディアヌ・キュリス 122分
『悲しみよ こんにちは』でありに有名なフランソワーズ・サガンの伝記映画。あの小説が有名になりすぎたために作家の実像と作品の真価は十分に知られるところとはならなかった。サガン再評価に向けて、サガン世代のみならず、若い世代の皆さんも一緒に、まずは2004年に69歳で亡くなった彼女の生涯を振り返ってみる。